

# 市政を問う

# 一般質問

## 一般質問とは

議員が議案以外に市の行政全般にわたり、市長や教育長などに説明や報告を求め、また所信をただすことです。適正な行政運営を行う上で、その役割は重要です。ここでは、25人の議員からの質問のうち、1人3件までその要旨を掲載しました。

- (政和) = 政和会
- (公明) = 市議会公明党
- (フォ) = フォーラム小平
- (共産) = 日本共産党小平市議団
- (生ネ) = 生活者ネットワーク
- (虹ひ) = 虹とひかり
- (みな) = みんなの党小平の会

## 行政一般

### 都市のダイナミズムと小平市のいき方

宮寺賢一議員(政和) 躍動をかたちに進化するまちという将来都市像と今の小平市はマッチングしたものとなっているか。

市長 将来都市像は元気というキーワードを躍動と進化という言葉で具体的にイメージしたものである。厳しい経済情勢や東日本大震災の経験から、東京の一自治体となすべきことは経済力に頼った力強さよりは地域の自治力ではないかと考えている。市民や地域の団体、事業者などの活動が公共の領域で原動力になるとの考えを基礎に今後も施策を展開していく。

### メールマガジンを活用し情報発信力を高める世界に

津本裕子議員(公明) ①配信登録の簡略化は検討したか。

②メールマガジンを有効に活用し、発信力を高めるべきでは。

市長 ①セキュリティを確保する必要があり、現在仕組みを検討している。

②市報やホームページと異なり、登録者に直接情報を配信できる有効な手段と認識している。今後も配信の拡大に努めたい。

### 市民と行政の協働を推進するため

平野ひろみ議員(生ネ) ①いきいき協働事業の評価は。

②協働を推進するための庁内での取り組みと市民への広報は。

市長 ①地産地消・資源循環モ

デル事業等の市や市民団体だけではできなかった事業が実施できている。協働の効果があつたと考える。

②庁内では職員対象の研修会の実施や協働推進についての調整、検討を行う会議を開催している。市民へは講演会やイベント、あずびあ通信等の刊行物を通じて広報している。

### 市長や議員など特別職の報酬を市民参加で見直す仕組みを

橋本久雄議員(虹ひ) ①小平市特別職報酬等審議会を開催する考えはないか。

②特別職の報酬等の額を見直す考えは。

市長 ①他団体の動きや社会経済状況など諸般の情勢を考慮し、見直しが必要と判断した場合に開催したい。

②現時点では見直す考えは持っていない。なお、一部事務組合の管理者等としての報酬等は、それぞれの組合が判断するもので答弁は控えたい。

### 小平市の経済財政状況と今後の見直しについて

磯山 亮議員(政和) ①財政において歳出削減と歳入拡大が必要だが取り組みは。

②市の景気についての認識は。

市長 ①歳出削減では財政援助団体への補助金や各事務事業の見直しを進め、歳入拡大ではコンビニ納付の実施や公有財産の売り払い等を進めている。

②やや持ち直していると思われが、生活保護世帯は過去最

大を更新し続けており、市民の暮らし向きは改善されていないと認識している。今後も現在の状態がしばらく続くと考えている。

堀 浩治議員(政和) ①条例制定による市民生活への影響は。

②条例をどのように活用していくのか。

市長 ①市民生活が劇的に変わるような即効性はないが、条例制定の目的である参加と協働が市民自治のまちづくりの実現につながるかと考える。

②条例には自治の主体である市民についての規定が盛り込まれている。市民みずからの経験や能力を発揮して地域の課題解決に主体的にかかわってもらい、活力ある地域づくりに取り組む。

### 地域福祉の担い手である社会福祉法人への今後のかわり方は

常松大介議員(フォ) 社会福祉法人の定款認可事務が市に移管されることをどうとらえ、今後どうしていくのか。

市長 社会福祉法人の施設や事業の検査事務が都に残り、窓口が都と市に分かれる等の課題がある。移譲時期は平成25年4月1日で、内容にも不確定な要素があることから、事務の再委託等も選択肢の一つとして考慮しながら検討していく。

### 選挙投票の推進、啓発と選挙公報のホームページ掲載について

永田政弘議員(政和) ①小中学校の授業に選挙の啓発学習を組み込めないか。

②選挙公報をホームページに

掲載できないか。

教育長 ①小・中学校ともに社会科で投票率の問題を取り上げる等、選挙に対する意識を高める授業に取り組んでいる。

選挙管理委員会事務局長 ②東日本大震災以降、選挙管理委員会のサイトへの掲載は可能となっているため、次回の市長選挙からの掲載を検討している。

### 市制施行50周年に対する市の認識及び取り組みについて

磯山 亮議員(政和) ①予定する事業のコンセプトは。

②記念事業として小平に縁のある作曲家等の音楽を市内の鉄道駅で使ってはどうか。

市長 ①ふるさと文化等を再確認する「あゆみ」、子どもが夢を描く「さぼう」、新たな風を吹き込み将来への魅力づくりを行う「いぶき」が柱である。

②発車ベルを地域に関連した曲に変更してPRにつながる事例がある。今後、市をPRできる適切な曲があれば検討する。

### 市の木、市の花、市の鳥について

川里春治議員(政和) ①市の木、花、鳥のシンボルを、ケヤ



「小平市 だいすき 50th」

キ、ツツジ、コケラに決定した方法と市民参加の状況は。

②今後の50年を考えた市の木をブルーベリーにしようか。

市長 ①市の木と花は、小平市緑と花いっぱい運動の会が選定した候補の中から市民投票で決定。市の鳥は専門家や野鳥に詳しい市民から成る野鳥調査委員会の1年間の調査結果と市民アンケートで決定した。

### 今こそ広域連携の推進を

宮寺賢一議員(政和) 富山県では住民票等をどの市町村の窓口でも取得できる相互委託を実施しているが、この取り組みをどう評価するか。また、同種のサービスを広域連携で展開する考えはないか。

市長 市民の利便性の向上につながる。有益と認識している。現在、住民基本台帳ネットワークにより住民票の写しの広域交付は全国的に実施されている。戸籍謄抄本などの広域交付は富山県以外の自治体でも実施しており、その体制や仕組みは広域連携を進める上で参考にしたい。

### 縦割り行政脱却に向けての政策共有のあり方について

日向美砂子議員(生ネ) ①市の重要な基本政策の理念について庁内でどう共有しているか。

②課題対応型の部署を横断した政策立案的なチームの設置を検討しては。

市長 ①庁議や部内会議で周知と共有化を図り、職員研修等で理念を浸透させている。

②庁内横断的なものとして環境施策等の推進本部、部署を超

## 子ども・女性

### 鈴木保育園国民営化の決定は拙速過ぎないか

橋本久雄議員(虹ひ) ①保護者説明会や意見交換会で出された意見への見解は。

②なぜ保育行政の全体計画をつくらないのか。

市長 ①民営化に反対との意見や公立保育園を減らすことへの疑問等が多くあることを踏まえ、優良な事業者の参入を促して円滑な移行を行い、安定的かつ継続的な運営を確保したい。

②借地に建てた園や複合施設になっている園など、建てかえの際にさまざまな調整を要する園も多く、全体計画を立てるのは非常に困難である。

### 鈴木保育園を存続させ公立園としての役割を拡充して

末廣 進議員(共産) ①総力を挙げて公立保育園としての役割を發揮するときではないか。

②公立保育園と鈴木保育園の将来について父母等と合意形成すべきと考えるがどうか。

市長 ①公立保育園と私立保育園が連携して質の向上と量の確保を図り、子育て支援施策の実を目標とするが保育行政に求められていると考える。

②子育て支援協議会での検討やパブリックコメントを経て策定した公立保育園の運営のあり

えた課題ごとに設置する部間調整会議、複数部署に係る課題への提案を行う政策研究プロジェクト等がある。今後も枠にとらわれず柔軟に対応したい。

方に関する方針に基づき、意見交換会や保護者説明会での意見等も参考にしたい。

### 子どもの成長と保護者の労働を保障する学童クラブの運営を

村松まさみ議員(虹ひ) ①特別支援学級に通う児童の受け入れ状況は。

②通常学級在籍でも特別な支援が必要であれば、6年生まで通所が可能ではないか。

市長 ①施設の規模と指導員による運営体制から1クラブ2人以上が原則だが、平成23年度から可能なクラブでは3人の障害児を受け入れている。

②障害者手帳が交付されている児童と特別支援学級在籍の児童以外は、障害のない児童と同じ保育が可能と判断し3年生までが適当と考える。

### 市内認可保育園の来年度以降の面積基準はどのようにするのか

常松大介議員(フォ) 認可保育所の面積基準を特例的に緩和する厚生労働省告示を受け、市はどのように臨むのか。

市長 告示は、認可保育園新設等の対策を講じてもなお待機児が解消されない場合の特例措置と認識している。市では平成24年度以降に認可保育園3園を新設する予定なので、従来の水準を確保していく考えである。